

情報通信審議会 情報通信政策部会
放送コンテンツの製作・流通の促進等に関する検討委員会(第11回)
ワーキンググループ合同
議事概要

1 日 時

平成30年2月15日(木) 9時30分

2 場 所

TKP赤坂駅カンファレンスセンター ホール13A

3 議 事

- (1)米国・英国の放送局によるネット配信の取組み(野村総合研究所)
- (2)ネット配信に係る放送事業者の最近の取組
- (3)ブロードバンドを活用した放送サービス高度化実証事業について(三菱総合研究所)

4 出席者(順不同、敬称略)

【構成員】《委員会》

村井純主査(慶應義塾大学)、近藤則子(老テク研究会)、谷川史郎(東京藝術大学)、三尾美枝子(キューブM総合法律事務所)、内山隆(青山学院大学)、大谷和子(日本総合研究所)

《ワーキンググループ》

相子宏之(TBSテレビ)、阿部浩二(日本放送協会)、石澤顕(日本テレビ放送網)、池貝真(フジテレビジョン)、廣瀬和彦(テレビ東京ホールディングス)、藤ノ木正哉(テレビ朝日)、井上治(電子情報技術産業協会)、木田由紀夫(衛星放送協会)、木村信哉(日本民間放送連盟)、土屋円(放送サービス高度化推進協会)、林正俊(日本ケーブルテレビ連盟)、福井省三(IPTVフォーラム)、吉田正樹(日本音楽事業者協会)、高杉健二(日本レコード協会)、溝谷哲也(日本音楽著作権協会)、椎名和夫(映像コンテンツ権利処理機構)、別所直哉(ヤフー)、角隆一(日本電信電話)、小林丈記(ソフトバンク)、宇佐見正士(KDDI)、岩浪剛太(インフォシティ)、岡村宇之(日本映像事業協会)、笹平直敬(日本動画協会)、清水哲也(全日本テレビ番組製作社連盟)、遠藤誠(全国地域映像団体協議会)、桜井徹哉(博報堂DYメディアパートナーズ)、石川豊(電通)、

長田三紀（全国地域婦人団体連絡協議会）

《オブザーバ》

白鳥綱重（文化庁）、山田仁（経済産業省）

【総務省】鈴木茂樹（総務審議官）

《情報流通行政局》

山田真貴子（局長）、奈良俊哉（審議官）、鈴木信也（総務課長）、湯本博信（放送政策課長）、坂中靖志（放送技術課長）、三田一博（地上放送課長）、井幡晃三（衛星・地域放送課長）

【事務局】豊嶋基暢（総務省情報流通行政局情報通信作品振興課長）

5 配付資料

資料 1 1 - 1 米国・英国の地上波放送局の取組み（野村総合研究所）

資料 1 1 - 2 ネット配信を実施する放送事業者の取組について

資料 1 1 - 3 事業結果説明資料（三菱総合研究所）

参考資料 1 1 - 1 委員会（第10回）議事概要

6 議事概要

（1）米国・英国の放送局によるネット配信の取組み

- 野村総合研究所より、資料 1 1 - 1 に基づき説明がなされた。

（2）ネット配信に係る放送事業者の最近の取組

- 資料 1 1 - 2 に基づき事務局及び日本テレビ、TBSテレビ、テレビ東京より説明がなされた。

◆ 意見交換

- 【内山構成員】おはようございます。ありがとうございます。TBSさんとテレビ東京さんにご質問です。今日、新美先生がいらっしゃらないので、権利処理のタスクフォースの観点でご質問があるんですけども、今、ご説明いただいた中で、スポーツ中継があって、過去の映像を通して選手を紹介する等の部分がフタかぶせ等、あるいは権利処理が難しいという形がございました。リニアの本放送では、その部分って動画のクリップだったのか、スチールのクリップだったのかというのが1つ疑問点としてありまして、もし権利処理するとなると、競技団体なのか、個人なのかといったところのご質問です。
- 【相子構成員】TBSについて、先にお答えさせていただきます。映像でいいますと、動画になります。例えば、オリンピックですとか世界陸上というところがございますので、配信する際

には、当然権利者団体といえますか、その団体に確認してということになります。その権利まではとっていない部分もございませぬので、その団体に確認してということになると思ひます。

- 【廣瀬構成員】テレビ東京につきましても動画で、ケース・バイ・ケースでの対応となっております。
- 【三尾構成員】権利処理の関係で、引き続き同様な質問なんですけれども、まずTBSさんのほうで、先ほどご説明があった権利処理のBGMなんですけれども、これについては、BGMの権利処理として、著作権本体の問題なのか、原盤等の隣接権の話なのか、どちらなのか。まあ、どちらでもということになるのかもしれないんですけれども、そのあたりをお聞かせいただければと思ひます。
- 【相子構成員】済みません、さっききちんと説明すればよかったんですけれども、音楽に関しましては、当初から配信を想定して行っておりましたので、権利クリアできたものを使用したので、音楽の部分では特に問題なく、そのまま使っております。
- 【三尾構成員】そうですか。ありがとうございます。同様のご質問を、テレビ東京さんにもしたいと思ひますけれども、いかがでしょうか。
- 【廣瀬構成員】テレビ東京につきましては、その辺の権利をクリアにできてないということがございませぬので、音楽については外して配信しております。
- 【三尾構成員】ということは、権利処理について、できていなかったということになりますか。
- 【廣瀬構成員】生放送でやるということがありますので、そういった作業につきましては、まだ迅速に対応しにくいということなので、あらかじめそういう音楽については外して配信するという形で使っております。
- 【三尾構成員】ああ、もう当初から権利処理せずに、そこを除いてと。
- 【廣瀬構成員】はい、権利処理せずにということなんです。
- 【三尾構成員】わかりました。ありがとうございます。
- 【内山構成員】もう1点だけちょっとご質問なんですけれども、今度は日テレさんとTBSさんで、今回の実験で、CMの差しかえなりをなさっていたと思ひます。そのあたりの苦勞をちょっと教えて欲しくてですね。例えば、TBSさんは、多重システムにしておかないとだめだという形でご報告があったんですけれども、もしシングルにしておいたら何が起きたんだろうという、ちょっとイメージーションとしてなかったのがありました。ほかにも多分、リニア本放送のほうのスポンサーさんに対する氣遣いとか、多分いろいろあったと思ひますので、ちょっとその辺のご苦勞を教えていただければと思ひます。
- 【相子構成員】TBSのほうからご説明させていただきます。実は本番を迎える前に、何度かト

ライアルを行いまして、その時点ではやはり調子が悪くなって別の画面に切りかえるというようなことがあったんですけども、本番ではそれほど大きな問題が無くまいりました。先ほど申し上げましたけれども、やはり広告をきちんと出すことによってお金をいただくということですので、そのあたりは放送の考え方なのかもしれませんけれども、今回は多重化ということで、しっかりまず初めてのトライアルだったので、その辺の体制を組んでということによってやっております。

セールスにつきましては、当初からスポンサーさんのほうに配信を行うということで、きちんと説明をさせていただきましたので、そのあたりは非常にスムーズに進んでいっているというふうに思っております。

- 【石澤構成員】箱根駅伝の場合、今回は売り上げを立てておりません。CMに相当する素材といたましては、地上波でご提供いただいているクライアントから、インターネットに流してもいい素材を借り出させていただきまして、それを当てて使ったという形になります。

今回は、したがってきちんと出して、予定のディールを真っ当するというのではちょっと違うものですから、2重化、3重化というところにはしておりませんが、実際に運用するに当たって、放送と同じような精度、確度で本編とCMの差しかえがうまくいくかという、これはやってみたところ、少し不安定なところがあるなという印象がございます。この辺は今後、研究課題として残っているところがございます。

- 【相子構成員】済みません、1点だけちょっと補足させていただきますと、今回こういった体制でやって、4重化ということもやりましたので、やはりコストはそれなりにきちんとかかってしまいまして、スポンサーさんのほうにはご理解をいただいたものの、収支で見ますと厳しい状況というのがございましたので、このまますぐビジネスに入れるかという、なかなか難しい状況だなということではございました。

- 【近藤構成員】テレビ東京の方の先ほどのご説明の中に、YouTubeのアーカイブのほうは視聴数が多かったというふうにご説明があったんですが、それは正しいのでしょうか。私の聞き間違いでしょうか。

- 【廣瀬構成員】いえ、そのほうが多かったというデータになっております。いわゆる見逃しで見られる方が多いと。

- 【近藤構成員】ということは、ネット配信がある番組に対して、ネット配信があるということが広告価値をトータルで高めるということの評価につながって、今後ネット配信をすることが広告営業に対してプラスになるということなのかなというふうに思うんですけども、その辺はどのようにお考えでしょうか。

- 【廣瀬構成員】そこまでまだビジネス的に成立するかということは、研究、検討段階で、調整段階だと考えておりました、まだその辺の見きわめをしているという状況ではございません。
- 【近藤構成員】視聴者からすると、例えばいろんなスポーツだけではなくてニュースの番組などでも、放送で扱いきれなかった部分のインタビューをネットで見られるなんていうことがBBCとかではよくやっておられますけれども、そういうプラスして相乗効果の広告価値ということをもし得たら、ぜひ推進を検討していただけたらと強く希望します。頑張ってください。以上です。
- 【大谷構成員】年始に、それからスポーツ番組などでさまざまなトライアルをしていただいて、やればやっただけの課題も見えてくるので、これからのネット配信について、かなり前進してこられたなという感想を抱いております。

そこで、各社のご説明の中に、今回の配信に際して、相当の人数を充てられたということで、日テレさんが23名で、TBSさんが20名、いずれももしそれが本格的に実施されることとなりますと、省力化などが課題であると思えますし、人の手でできない分は、やはり自動化ということが必要になってくると思うのですが、そういった自動化のためのルールづくり、あるいはシステム開発といったものについて、各局が単独で実施されるのか、それとも何かそういったやり方などについて相互に連携して進められるのか。あるいは、やはり全部の局がそれだけのお力はない。特にローカル、地方のほうは少ないと思えますので、全国でそれが利用できるようなシステム開発に進んでいくのかといったことについて、ご意見、それからご展望のようなものがありましたら伺いたいと存じます。
- 【相子構成員】TBSのほうから1点述べさせていただきますけれども、本格的にこれが同時配信といいますか、運用されるということになった場合、一番大事なことは、やはりユーザーインターフェースといいますか、ユーザーの方にきちんと使っていただきやすいようなサービスにすることが非常に重要かと思えます。メディアコンサルタントの方がどこかに書いていたけれども、皆さんスマホをごらんいただいたときに、スマホのトップ画面におそらく入れていらっしゃるサービスが、非常に皆さんよく利用されるサービスなんだろうと思えますけれども、やはり放送をきちんと、社会的な責任ですとか、そういったことを果たすということを考えますと、皆さんに使っていただきやすいサービスにすることが最重要だと思えますので、その点を含めて考えますと、やはり連携をして、業界的にはきちんとスムーズに円滑に広がるような形での開発なり、進行が必要かなと考えております。
- 【石澤構成員】日本テレビから、論点はほぼ同じなんですけれども、今回の人員の中に入っておりますのは、生でCM相当部分に情報を出しましたので、それを読み上げるアナウンサーも人

員の中には加えてございます。

それから、先ほどの質問に対するお答えにもなるんですけども、今回の体制の中で、CM送出のための2重化、3重化の話に相当しますけれども、システムがうまくいかない場合の人的なシステムを組んでバックアップ体制をとっておりましたので、この辺もこの中に入っております。したがって、今後の研究検討次第では、ここが2重化されたようなシステムで運用できるのであれば、人力的には少しサイズダウンすることができようかなという気がします。

それから、コスト全体を見渡してですけども、それなりのコストがかかっておりますけれども、一定のボリュームで、ああ、大きいなと思うのは、やはりCDNのコストがそれなりに大きいなという印象を持っております。この辺については、今回単発でこれをやるという中で行いましたので、単価をどのような形でフィックスをしていくのかみたいなものは、別途研究が必要だと思えます。以上です。

- 【谷川構成員】実験をやられた3社の中で、日テレさんが4ページの中で、視聴者のデータを出されていて、大変興味深く見せていただいたんですけども、番組の同時配信のほうをネットで見ている人で、男性の比率が高くなるというのは、何らか分析されてみたことがもしあればお聞きしたいなと思ったのと、特にこれ、お正月だったので、特に通勤時間帯とかそういうことでもないと思えますので、一般的な傾向として、こういうものが出てくるんだろうかと。日テレのほうのデータを見せていただいて、もし似たような傾向を持たれているのか。それとも、非常にこれは特殊な例なのか、もしTBSさん、テレビ東京さんからコメントがあればお聞かせください。
- 【石澤構成員】それでは、お配りしております4ページ目に、各媒体のターゲット属性という円グラフを入れさせていただきまして、ご指摘のとおり、真ん中と右側のインターネット配信を利用した男女比につきましては、3分の2が男性という結果が出ております。Hu!uのほうは、会員の主たる構成比が男性が多いということですので、これは推定できる場所ですけども、ホームページ経由で利用した方のボリュームということにつきましては、少しモニター調査等々突合している最中ですので、もう少ししたら、こういったシチュエーションでどのような使い方をしたのかみたいところと重ねてみることで、ある程度の推定ができるかと思えます。今、手元にはご説明できるデータは持ってございません。
- 【相子構成員】TBSのほうも、テレビの視聴者でいいますと男女比はそんなに大きな差はありませんが、先ほど申し上げましたように、配信のほうでは男性のほうが多く、かつM1ですとかM2ですとかというのが構成に比べて増えるというような傾向でございますが、その要因はちょっとTBSもまだ分析中でございますので、今後きちっと確認したいと思えます。

- 【廣瀬構成員】テレビ東京グループにつきましては、現在、男性、女性、性別につきましてはのデータが明確にございません。流しているコンテンツから想定すると、柔道では男性が多いだろうし、卓球ではやや女性も増えているのかなとは推定はできますが、その辺のデータはとれていないというのが今の状況でございます。
- 【村井主査】ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。どうぞ、椎名さん。
- 【椎名構成員】各局さん、権利処理というような言葉が使われているところで、三尾先生から、権利処理の課題は著作権ですか、音楽ですかみたいな質問がありましたけど、この場合の権利処理といったときに、NHKさんの試験的提供Bのご報告から見ますと、音楽や著作権以外の放映権でありますとか、そういった権利処理の部分がはるかに大きなポジションを占めているという実態があったんですね。この点について、各局さん、やはり同じように課題があるのか。また、対応はどういうふうにされているのかということをお伺いしたいと思います。
- 【相子構成員】今回の場合は、スポーツイベントということでございましたので、特段出演者の方とかそういった問題はございませんで、先ほど申し上げましたように、オリンピックですとか、そういった別のイベントの素材ですとか、そういったあたりが今回問題になったということでございます。ほかの番組等々にこれが広がっていった場合の件については、ちょっと今後、引き続き検討したいなというふうに思っているところです。
- 【石澤構成員】箱根駅伝の場合、音楽系はTBSさんと同じように事前に処理をしておりましたので、実際に同時配信のときに問題は起きておりません。それから、映像、あるいは肖像と言ったらいでしょうか、この辺につきましては、レースに参加されている学生さんということで、この辺の動きは、関東学生陸上連盟さんときちんと話をして、コンディションをつくった上でインターネットに配信をするというスキームの中で進めております。したがって、事立てて事前のVTRを使うので、その処理ということは包括的に合意がなされているという理解でよろしいかと思えます。
- 【廣瀬構成員】テレビ東京につきましては、明確に迅速にルールで処理できないものについてはあらかじめ調整せずに、その辺につきましては削除、放送しないといえますか、音楽などを放送せずに配信するという形で、実験的取り組みをやっております。
- 【椎名構成員】今回は実証実験ということですので、あらかじめトラブルが起きないような想定でということ是可以すると思うんですが、地上波の番組を同時に配信していくということになりますと、やはりNHKさんの場合のように、放映権の話とか、あるいは写真の権利の話だとか、アニメの権利の話だとか、そういった、いわゆる権利処理と言われて想像する著作権、著作隣接権、あるいは原盤権の話以外の部分が出てくることは想定されるんだろうなということ

申し上げておきたいと思います。

○【長田構成員】ありがとうございます。ほんとうに一視聴者の側からの質問なんですけれども、今回、箱根駅伝、ニューイヤー駅伝って、やっぱり朝家で見ていて、その後外出する、お正月なので、そういうようなときにはとてもニーズのある配信だったんじゃないかなと思うんですけども、この放送をごらんになった方がいらっしゃったらお伺いしたいんですが、映像がどうだったとか、そういうご感想をもし教えていただければ。とても見やすかったとか、そういうのがあったら教えていただければと思いました。

○【村井主査】とてもよく見えていました。沿道で利用させていただきましたが、映像の安定性はとてもよかったと思います。これ、私に聞いたんですよ。

○【長田構成員】まあ、そうです。

○【村井主査】とてもよかったとは思いますが、私が質問したかったのは、視聴者の反応についてです。私はCMの部分が変化しているのも意識はして、長時間番組のため、テレビだと同じCMが何度も流れます。しかし、同時配信では、沿道での応援の仕方などに変わっていて、そういうことがきちんとできていたのがよかったと思います。ただ、CDNで送っているんで、沿道で見ていると遅延があります。現場で見ている光景と、遅延した画面の関係に多少の違和感がありました。また、隣にワンセグで見ている方がいましたが、これと、私が見ているインターネット中継との違いが話題になったりする場面もありました。

というわけで、私の質問は、今回のような実験をされたときに、今私が言ったような、役に立ったとか、やはり遅延が気になったとか、そういう直接的な感想や反応に関する情報もお持ちになっていて、やがて私たちと共有していただけるような体制になっているのかというのが質問です。

○【石澤構成員】では、箱根駅伝のほうから。一部お褒めのお言葉もいただきました。ありがとうございます。モニター調査については、今集約をしているところではありますが、速報と、あるいは現場での声というのをもとめているところがございます。画面、画質等について概ね高い評価をいただいて、野外、屋外でも一定のクオリティーで見られることについては、非常に高かったと思います。

無料モデルと有料モデルとでも若干の差異がございまして、有料モデル、Huluを見た人のほうが、より高い評価をしていただいています。これもちょっと分析をいたしますが、もしかしたらCMがないというのがよかったのかなという声もあるんで、これが定性的な話なのか定量的な話なのか、少しチェックする必要もあるかもしれません。

それから、ディレイの話ですが、平均で申し上げますと、Huluのほうは、先ほどのフロ

ーでおわかりいただけますように、加工が少ない。最初に加工してしまったものをそのままCDNに渡しておりますので、概ね20秒前後、いっても30秒ぐらいのディレイではなかったかと。それから、無料モデルのほうは、それを上流として、途中でCMを差しかえるという作業が入ってきますので、四、五十秒のディレイがあったように思います。利用者の方の多くの方が、四、五十秒のディレイがあったとしても、ほかに比較する環境がなければ、ほぼリアルで状況を共有しているというふうな環境になろうかと思いますが、村井先生のように沿道で見ながらということであれば、この20秒、あるいは40秒の差で、意中の選手が走り去ってしまったということがあるかもしれませんが、その辺はインターネットはそういうものだという利用のされ方を、リテラシーを上げていていただくということになろうかなという気もいたします。済みません。

- 【相子構成員】TBSでございますが、ディレイに関して言いますと、デバイスですとか環境によって30秒から60秒ぐらいのディレイがあったと。この辺はきちんとそういったことはございますというお知らせも出して、対応させていただいております。

それから、ユーザーの反応でございますが、やはりユーザー、視聴者のニーズといったあたりもございますので、アンケートを実施し、現在集計中でございますが、可能な範囲では共有させていただくことは思っております。

- 【廣瀬構成員】テレビ東京の場合は、比較、駅伝のようにディレイを実感する部分が少なかったと思いますので、当然四、五十秒のディレイは起こるわけですけれども、その辺につきましては了解していただくということで対応しております。
- 【村井主査】ありがとうございました。どのように受けとめられたか、また、どのように楽しんだかなど、そういうアンケートの結果から課題も生まれてくると思いますけれども、それも大変貴重な情報ですので、また一度皆さんと共有していただければありがたいと思います。よろしく願いいたします。

(3) ブロードバンドを活用した放送サービス高度化実証事業について

- 三菱総合研究所より、資料11-3に基づき説明がなされた。

◆ 意見交換

- 【近藤構成員】2月2日の報告会にも参加して、大変類型Cの運用方法がすばらしいというかおもしろかったので、このときに、ここには紹介されていないんですが、使い方のわからない視聴者の方が多くて、担当の方が一生懸命ご自分で操作の代行をしてあげたというエピソードがあって興味深かったんですが、実際のところ、参加した、利用した視聴者の方の、ここがよか

ったとか、そういう生の声みたいなものというのは拾っていらっしゃるんでしょうか。もしあれば教えてください。

- 【三菱総合研究所 吉田様】ご質問いただきましてありがとうございます。類型Cにつきまして、実際の放送を活用した実証になっておりまして、それぞれモニターアンケート、あるいはインタビュー調査を実施しております。17ページ目のCBCテレビ様が実施されたような、番組を起点にして、実際に店舗に行っていたら、そこでクーポンを使って購入をするとか、そのようなサービスは非常におもしろかったというご意見を頂戴しております。利活用という観点ではかなりポジティブなご意見をいただいているというところでございます。

他方で、個人情報の取得等保護の観点につきましては、19ページ目で先ほどご報告させていただきましたけれども、書いてあるものを全て読むということはないというご意見も見受けられました。これはインターネットの世界でも同じだとは思いますが、書いてあることはだいたいいつも同じだと思うので読まないとか、料金が発生するのかなというところについてはよく確認したですとか、様々な観点からのご意見を頂戴しております。

- 【近藤構成員】高齢者の方にスマホ教室をやると、そういう画面が出てくると、100%課金があると信じている高齢者がすごく多いんですね。なので、最初にこれは無料ですというふうに表記していただくと、視聴者の人は安心して次のページにいけるとお思いますので、ご検討ください。以上です。
- 【大谷構成員】たくさんの実証実験、それぞれに効果があって、いずれも興味深いのですが、特に私も興味深く拝見したのが、17ページのCBCの実証実験ですね。これでやはり興味深かったのが、視聴者の情報をうまく活用することによって、番組そのものの商業的価値も高まっているという点だと思います。先ほどの各局からのご報告の中にも、多分テレビ東京さんだったと思いますが、ネット配信した場合などの計測指標が異なるという課題が指摘されていました。番組の商業的な価値を高めるために、視聴データを活用した場合の効果というのをどういうふうにスポンサーにアピールしていくのかといったことについては、おそらく今後の各社のビジネスモデルを構築する上での1つのテーマでもあり、課題になってくるのではないかと考えております。そのあたりについて、各社が考えていらっしゃることそれぞれだと思いますので、引き続きどのような可能性があるのかを探っていくということが必要ではないかという、意見として申し上げたいと思います。

あと、これは素人の単純発想かもしれないのですが、タイムシフトの視聴率を含めて総合視聴率を出しているように、ネットでも視聴データが利用されたり、連携して価値が向上しているようなものをどういうふうに数値化していくのか、見える化していくのかというのは、ちょ

っと検討してみるとおもしろいのではないかなとも思っているところです。

非常にちょっと細かいところでご質問させていただきたいのですが、今の資料、11-3の1ページ目のところで、テレビのネット結線率が27.5%に達するというふうに書いていただいている、野村総研さんで各国の状況を調べていただいたときに、日本では直接的な結線率が13%ということで、特にイギリスから見ますと3分の1程度になっているということですが、この数字は捉え方がちょっと違っているのかということと、やはりこの全体の検討を通して、結線の促進というのがやはり課題だなと思っております。今後、結線を進めていくにはどのような取り組みが望ましいと思われるのか、野村総研さんと、それから三菱総研さん両方からご意見を承れればと思います。

- 【村井主査】ありがとうございます。それでは、それぞれお答えいただいでよろしいでしょうか。
- 【吉田様】まず、ネット結線率の違いの部分についてですけれども、弊社が記載した27.5%は総務省の通信利用動向調査を引用しております。野村総合研究所様の数値は、独自に実施されたアンケートに基づくとお伺いしております。おそらく、通信利用動向調査では、ハードディスクレコーダー等も含まれている一方で、野村総合研究所様のものには含まれないために、数値がずれていると認識しております。

また、ネット結線率を上げていくための施策でございますが、現状、ハイブリッドキャストを含めて、サービス認知度自体が低いため、それを上げていく必要があると思っております。地上波放送局様を含めまして、データ放送でじゃんけんをすとか、番組連動型のSNSを仕掛けるとか、様々な取り組みを実施されておりますが、そうした地道な取り組みを積み重ねていながら、楽しさを遡及していくしかないのかなと考えております。

- 【野村総合研究所 山口様】野村総合研究所でございます。定義は今、三菱総研さんのご指摘のとおりで、NRIで独自にアンケート調査をしたものになっております。アンケートのとり方としては、テレビ受像機にダイレクトに接続して常時使っている方という定義で、かなり厳しめの数字をとっているというところで、数字が低めに出ているという状況でございます。

おそらくハードディスクレコーダーであったり、それ以外のデバイス経由でテレビ接続しているという数字をとると、総務省様の数字であったり、さらに高くなる可能性があるのかなと見ております。あと、テレビメーカー様とお話をさせていただいても、最近のテレビは、基本ネットに接続できる前提というか、売り方をされているというお話もお伺いしておりますし、最近発売されたテレビのみを見ても6割とか7割となっており非常に高い数字だともお伺いしています。また、我々の最近の別の調査でも実際に高い数字が出ていたりします。

確かに接続率に関しては、民放様ともかなりいろいろ議論になっていて、どの数字が正しい

のか、どれがベースになっていて、どういうふうに考えたらいのかというお話があるんですが、ここは確かにもっと正確に知っておく必要があるのかなと思っております。以前グループインタビュー等でやったときも、データ放送が利用できるのが、実は結線しているんじゃないかって誤解されているような視聴者もいらっしたりもしたケースがあったりするので、結線って何なんだということもちゃんと周知をしていく必要があるのかなと思っております。

先ほど私のプレゼンの中で申し上げたんですけれども、やはり海外ですと、動画配信サービス、特に見逃し配信サービスが、これは日本と状況が違いまして、テレビデバイスを含めた形で視聴できるというふうに、要はマルチデバイスが前提のプロモーションをされているという状況です。なので、見逃し配信サービスの利用率が非常に高いというところから、あ、テレビでも見られるんだ、スマートテレビでそういうアプリが入っている、じゃあ見たらいいのでは、という形で流れています。日本の場合は、見逃し配信サービスがそもそもそこまでメジャーかと言われると、これは語弊があるかもしれませんが、そこまでまだ広がっていないのではないかというふうに理解をしております。なので、いろいろなサービスがあるとは思いますが、例えば動画配信サービスがテレビ受像機で見られるということは、民放様含めていろいろプロモーションをしかけてうまく広げていく必要があるのかなと、結線率の向上という観点ではあるのかなというふうに理解をしております。このような回答でよろしいでしょうか。

- 【大谷構成員】 どうもありがとうございました。今回のさまざま同じ実証実験でも、テレビで災害時の放送の引き戻しなどの実験も行われたり、新しい方法も決まったりと、テレビの可能性といったものについての安定的な方向性というのが見えてきていると思いますので、できるだけそれを担う人を増やすことによって、結線されたテレビのメリットというのを視聴者が享受できるふうになっていけばよろしいのかなと思って伺わせていただきました。ありがとうございます。
- 【谷川構成員】 この地方局を中心にした実験、大変興味深くお聞きしましたけれども、やっぱり1つは、先ほどもありましたけれども、17ページ目のような、地元密着型のサービスというのは将来出てくるんだろうなというふうに改めて感じます。ただ、ご報告の中にもありましたけれども、地方局だと人手がないとか、技術的になかなかスキルがまだキャッチアップできていないというような議論もありまして、多分こういったところを底上げしていくような仕組みというのも並行して考えていかないと、なかなか技術だけ先行してもうまくいかないのかなというのをちょっと改めて感じた次第です。
- 【内山構成員】 今日伺って、今ご指摘あった人材育成とか、人が足りない、あるいは何とかしな

きやいけないというのは1つ大きなテーマだったと思いますし、もう一つ、民放様のお話が多かったので、やっぱり広告の問題も1つテーマだったかなと思っております。一番最初、野村総研さんの発表にちょっと戻って申しわけないんですけども、6ページ目に英国のITVとChannel 4のこれからのアドレスサブルのお話が出てきておりますけれども、これは大体どれぐらいの数量目標で、このITVとChannel 4さんは考えていらっしゃるのかなというのがわかれば教えてください。この全体、米英のリサーチされている中で、肌感覚をちょっと教えていただきたいんですが、多分この広告に関しては、トータルコンテンツレイティングとか、フォースクリーンレイティングという旧来型のデモグラのやり方と、こういうアドレスサブル、ターゲティングという2つのベクトルがあると思うんですけども、米英でそのせめぎ合いつてどういう肌感覚を持たれたかなというのを教えていただければと思います。

- 【山口様】英国に関しましては、情報がほとんど出ておりませんで、基本これは公開でされている情報のみです。ですので、どの程度広告費がという話は捉えきれれておりません。算出自体がまず始まっていないという状況ですので。

アドレスサブル等々の定義に関してなんですが、これも実は英国に関してはこれから始まるという話でございますので、アメリカに関しては、明確に各事業者、多チャンネル事業者中心に開始されているのでわかるんですが、英国に関しては、これもわかりませんという回答になってしまいます。おそらく始まればいろいろデータが出てくるのでわかると思うんですが、現実にはその回答になってしまいます。

- 【村井主査】そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日もいろいろな盛りだくさんのご報告をいただきました。いろいろな課題が出てきているということもご報告いただいたと思いますけれども、一方、これは同時再送信という課題に関して、供給側として、実際に動く仕組みをつくっていくということと、それから、それを視聴する、利用する人たちの登場も、本日はたくさん報告されました。それぞれにステークホルダーがいると思いますし、インフラとしてもたくさんステークホルダーがいて、本日の報告になっているかと思います。全体としての構造といいますか、見通しができるようなご報告になってきたと思います。本日いろいろな方からご質問いただきました、一体全体これはどういう状況で受けとめられているのかという、利用者や視聴者のサイドの情報も大分出てきているようですので、これもご報告をいただきつつ、議論を進めていきたいと思います。また実証実験については最後のところでご報告いただきましたけれども、これに関しましては、15ページ、16ページに今後の取り組み、課題が出ております。こういったことが今後どのように展開するか、これに関しても、皆さんのご意見を事務局のほうにお寄せいただければと

思います。それ以外でも、言い残したこと、気づいたことに関しては、事務局のほうにお寄せいただければと思います。

(4) 閉会

- 【村井主査】それでは、以上でワーキンググループ合同の第11回の委員会を終了させていただきます。本日は、お忙しい中ご参加いただきまして、また活発な議論、ご報告をいただきまして、どうもありがとうございました。

以上